

【学生フォーラム】

子どもに伝える SDGs

愛知学泉短期大学 幼児教育学科 佐護希海 竹中亜実 名倉李音

要 旨

乳幼児期は人格形成の基礎を培う重要な時期である。私たちは保育者を目指す学生として、子どもに「自分たちで地球を守る」という考え方を当たり前のようにもってほしいと思う。そのためには、子どもが楽しく学ぶことが重要である。子どもの特性を考慮し、「遊び」を通してSDGsを身近に感じ、興味・関心をもたせることが有効ではないかと考える。その方法として、本学幼児教育学科の伝統行事である「こどもまつり」の遊びの提供において実践した。その結果、子どもたちは、遊びを楽しみながら分かりやすくSDGsを学ぶことができた。

1. 目的

SDGsは近年社会的な課題となっている。しかし、SDGsについて「聞いたことはあるがよく分からない」と答える学生が多いことが現状であった。同時に温暖化や大気汚染など地球の環境が変化してきたことも感じていた。身近なことでは、セミの生態や野生の動物の行動範囲など自分たちの子ども時代とは少しずつ変化がみられる。「地球が危ない!」ということは何となく実感している。私たちは、この地球の自然の中で豊かな子ども時代を過ごしてきたが、この環境は永久に続くものではない。子どもを取り巻く環境の重要性については保育の授業で学んできた。私たちは、この地球環境は子どもたち自身が守っていかなければならないのではないかと考えた。SDGsについては、17の目標を子どもに分かりやすく解説する本が出版されたり、動画で紹介されたりはしているが、子どもが遊びながら身近に感じたり、関心をもったりするような方法が紹介されているものは見当たらない。そこで私たちは、子どもがSDGsを身近に感じ、子どもに分かりやすくSDGsを伝える方法を探ることを目的とする。

2. あそびの視点と実践方法

(1) 子どもの特性を考えた視点

幼児期の特性は、環境との相互作用によって発達に必要な経験を積み重ねて成長していく。

このことから、幼児は身近な環境の影響を大きく受けること、幼児は興味や関心を持ったものに自分から関わろうとすることの二つが大切であると考えた。①子どもの身近なもの②子どもが興味・関心をもつものの2つを視点とし、遊びを考案する。

(2) 実践の方法

本学の「こどもまつり」とは、幼児教育学科の学生が主体となって企画・運営をする伝統行事であり、1年間を通して取り組む授業である。地域の親子を対象に遊びの場を提供している。コロナ禍以降は、午前、午後の各100組を予約制で募集している。今回のテーマを「地球を守ろう! SDGs大作戦」とし、子どもにとって①身近なもの②興味・関心が持てるものという2つの視点から、各チームがSDGsの目標に関する遊びを考案し、「こどもまつり」において実践する。

3. 実践報告

こどもまつりは、クラス企画(9)、お話企画(3)、造形企画(3)の3種類15の遊びを提供した。遊びの考案においては、2つの視点①幼児のにとって身近なことであることと、②興

味・関心がもてる遊びを通して行うことがぶれないように行った。「こどもまつり」で実施した15の遊びは表1の通りである。

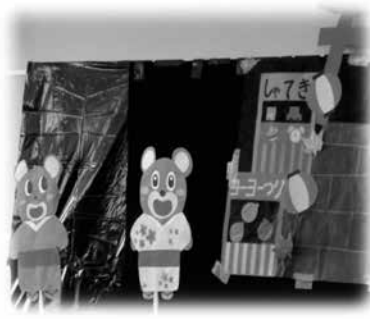
表1 「こどもまつり」遊びの内容

企画	SDGsの目標	あそびの内容
あそび1	目標6 安全な水とトイレを世界中に	きれいなお水を使うとどうなるのかな？
あそび2	目標10 人や国の不平等をなくそう	ヒーローになろう
あそび3	目標3 すべての人に健康と福祉を	バイキンをやっつけてワクチンを届けよう
あそび4	目標15 陸の豊かさを守ろう	森をきれいにして動物たちを笑顔にしよう
あそび5	目標12 つくる責任つかう責任	分別して虹を作ろう！
あそび6	目標4 質の高い教育をみんなに	より良い教育で夢を叶えよう！
あそび7	目標13 気候変動に具体的な対策を	残さず食べて動物たちを助けよう！
あそび8	目標2 飢餓をゼロに	キラキラコックさん
あそび9	目標8 働きがいも経済成長も	はたらくって何だろう？
言葉1	目標5 ジェンダー平等を実現しよう	好きなものは好き！を大切にしよう
言葉2	目標11 住み続けられるまちづくりを	ガックんのまちの秋祭り
言葉3	目標1 貧困をなくそう	食べ物を大切にしよう残さないで食べよう
造形1	目標17 パートナースHIPで目標を達成しよう	マラカス作りをしよう
造形2	目標16 平和と公正をすべての人に	世界にひとつだけの腕飾りを作ろう
造形3	目標14 海の豊かさを守ろう	海がきれいって気持ちいい！

5. まとめ

私たちは「こどもまつり」というイベントを通して実践したが、SDGsは日常生活の中での意識の持ち方や行動することが重要だと考える。私たちは、4月から保育者として人格形成の基礎を培う時期の子どもに関わっていく。保育者がSDGsの考え方をもち、子どものモデルとして行動することで、子どもがSDGsを身近に感じたり、興味・関心をもったりするようになるのだと思う。子どもが、当たり前のように「地球は自分たちで守る」という意識をもてるように保育をしていきたいと考えるが、学校教育に比べまだまだ保育実践においては模索中である。

今後多くの幼児教育の現場で、遊びを通したSDGsを実践してもらえるよう発信していくことが課題であると考えます。



参考文献

- 文部科学省告示第62号. 幼稚園教育要領<平成29年告示>. フレーベル館. 2017
- 厚生労働省告示第117号. 保育所保育指針<平成29年告示>. フレーベル館. 2017
- 秋山宏次郎監修バウンド著. こどもSDGs. 株式会社カンゼン. 2020